

学校運営協議会議事録

日 時	令和2年(2020年)10月22日(木) 10時00分～11時30分		
会 場	北海道新篠津高等養護学校 格技場		
出席者	学校運営協議会委員 12名		学校側 8名
出席者名	今 田 義 春 黒 壁 修 清 水 あゆみ 金 兵 真人 早 川 仁史 宮 川 卓也	上 田 マリ子 磯 貝 隆之 原 田 志郎 佐 藤 千佳 松 永 厚美 久 富 正規 (校長)	佐 伯 正文 (副校長) 難 波 繁 (教 頭) 法華津 英昭 (事務長) 松 本 研 司 (総務部長) 小 原 一 幸 (教務主任) 木 元 稔 敦 (進路指導部長) 高 佐 裕 一 (寮務主任) 林 和 憲 (生徒指導部長)
議 事	内 容		
1 学校運営協議会の目的、推進計画について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校運営協議会の目的、推進計画について：事務局（佐伯副校長）から説明 		
2 学校経営方針について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校経営方針について：校長から説明 		
3 教育活動、寄宿舎生活などについて	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育活動、寄宿舎生活などについて：事務局（佐伯副校長）から説明 		
4 委員からの感想について 「学校に期待すること」「地域資源を生かした教育活動」など	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現場実習の生徒を、年間を通して活用していただいても良い ・ 障がいの重い子の進学先確保について、学校の考えを聞ければと思った。 ・ 一般就労の状況が厳しくなっているが、現状はどのようになっているのか伺いたい。 →（学校から）現場実習先の開拓では、新型コロナウイルス感染症の影響により、飲食関係は特に断られるケースがあった。 ・ 一般的に2～3年で仕事を辞めてしまうことも見られるので、学校も努力をして地域に貢献しながら人材を育てる学校運営をしていただきたい。 ・ 同じ村にいて、交流が少ないと感じた。ICTを活用して道徳の授業などで、お互いの気持ちを分かり合える場があっても良いと思っている。 ・ 現場実習を行い、掃除やあいさつなどをしっかりとしてくれています。 ・ 高等養護学校が行っている学校行事を通じて、より多くの人との交流の場をお願いしたい。また、開放講座の受講生が多いことから、村民の学習機会の確保をおねがしたい。 ・ 地域の子どもたちに障がい理解してもらおうようなセンター的な対応が必要と考える。また、学校経営方針の中に、生徒の成長の姿が具体的に見えるような生徒の重点が大切である。 ・ 学校が少しずつ成長していることが見られる。 ・ 村として子ども達を受け入れてもらっていることが理解できた。 ・ 交流については、多くの世代と共生していくことが大切である。 ・ 村との関係において、この学校運営協議会を活かして意見等を言える場としたい。 		
5 会長及び副会長の選出について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会長を新篠津村社会福祉協議会 会長 原田 志郎 様、 ・ 副会長を新篠津村教育委員会 教育次長 金兵 真人 様 		
上記のとおり会議を開催した。 <div style="text-align: right;"> 令和2年10月22日 北海道新篠津高等養護学校長 久 富 正 規 </div>			